

21世紀劈頭の五輪、前半は日本国中を狂騒と熱狂の渦に巻き込んだが、女子マラソンが終わったら、そんな熱狂が急速に覚めてしまったようだ。(これで寝不足も解消できそうだ。) 竜頭蛇尾というか暗夜の花火の一瞬の輝きの如しか。何とも不可思議な感情が日本中を覆っている。熱し易く醒めやすい日本の性向を表していると言うべきか或いはマスコミのはしゃぎ過ぎに乗せられた事に大多数の人々が気づき始めたと言うべきか。

暗い話題ばかりの世相に確かに五輪は光明を与え、人々もひよっとしたら日本も五輪を契機に良くなっていくのではないかと淡い期待を持った事も事実だ。五輪特需もあったようだが、然し期待したほどではなかったのではないだろうか。

何れにしろ、日本選手団の活躍に惜しみない拍手と敬意を表したい。自信を失いかけていた我々日本人に確かな自信を取り戻させてくれた事は事実である。そういう意味において感謝もしたい。

未だ開催中であるので、総括的な議論は為されていないけれども、小生が気になった事を主体に幾つかの所見を述べたい。

① 日本女性の活躍に喝采！

日本選手団の陣容にしても始めて女性が男性を上回ったと騒がれたけれども、メダルの数は兎も角としても(未だ確定していない為、敢えて省略)、女性選手の活躍そして話題性には事欠かなかった。脱帽だ。強くなったものだし、やっと日本も一流国に仲間入り(?)か。

② 確実なメダル？

アテネに乗り込むに際し、マスコミが金メダル確実と大騒ぎした競技の結果はどうだったのだろうか。金を獲得出来なかったら、“オリンピックには魔物が居る”などしたり顔で解説する。絶対確実な金メダル等と言うものがある筈がない。一方、金確実(とは言わないまでもそれに近い表現で期待された)と目された選手や競技種目の中には完全に相手に研究されて、為す術がなかったと言う事もあった。プレッシャーに弱かったのかも知れぬし、驕りがあったのかも知れぬが、それらに負けるようでは少なくともトップアスリートとは言えぬ。まして同じチームに連敗するプロ選手だけのチームがあり得るのだろうか。

大舞台で普段通り或いはそれ以上に実力を発揮できる者のみに栄冠が輝くのである。それでこそスターなのだ。魔物などものともしない実力を涵養せずして一流と言えぬ。

勝負が終わったら爽やかに見苦しい言い訳などすべきではない。悔しさを露に表現することは、小生の美学にはないが、最近はそうでもないらしい。若い人はそれ位が良い。

③ 北京に照準を！

アテネにおいて体操、柔道、水泳日本などが復活した等と騒がれているが、本等に復活したのかどうかは4年後の北京大会で証明される筈だ。アテネでの活躍の陰には日本各界の永年における言い得ぬ労苦があったればこそである。ローマは一日にしてならずである。短期的には北京に照準を合わせ、中・長期的には10年、20年後を見据えた

施策が求められる。叱咤激励するばかりの強化ではなく、科学的トレーニングをも積極的に取り入れた合理的な強化策が必要だ。そして、人材の発掘と育成にも意を用いるべきである。

国民各層においても一流選手の育成には時間も金も手間も掛かる事を理解して熱き支援を願いたいし、少なくとも温かく見守って貰いたいものである。一時の熱狂が終った途端に、冷たくなって貰っては困る。

④ 大会運営を支える力！

オリンピックの規模、趣向も毎回華やかに且つ大きくなっていく。その分だけ、商業主義が入り込みやすく、なまらかな国では開催すら出来なくなる可能性をも秘めている。かと言って、今更古代オリンピックに回帰する事も出来ないとなると、今回もそうだが、従前からボランティアが重要な働きを果たしており、今後益々その重要性は高まりこそすれ低くなる事はなかろう。もう少し彼等にもスポットライトを浴びせては如何かと思うのは小生のみではあるまい。

オリンピックを一流の選手や役員だけのものとせず、全国民参加型のものとする為にも広くボランティアの参加を募るのは全世界との一体感を共有するという意味においても素晴らしい事である。今後の課題だろう。

(了)